

東海愛知新聞ふるさと文芸部御中
ヴィラ葵俳句クラブ 平成22年6月度例会

<p>久々の師の警咳<small>けいがい</small>や青嵐 訪ふ人の絶えし史蹟に落し文 甦る友の語りや五月闇</p>	石田昭太郎
<p>交わりて句作一刻夏に入る 手作りの紫陽花菓子に舌鼓 御陀浄佛打敷替<small>うちしき</small>へて更衣<small>ころもがへ</small></p>	大山ミツエ
<p>六月や施設創立祝い膳 おこがまし男爵名乗る芋の花 「なでこ」のきざみ煙草に父偲ぶ</p>	近藤 武
<p>さつき咲く長き柄杓に清められ あやめ咲く亡夫<small>つと</small>と楽しむ抹茶かな</p>	大須賀鈴江
<p>竹筒の器巧みに山つつじ 夏空や長く尾を引く飛行雲 病には負けじと誓ふ初夏の夜</p>	杉山 保
<p>時の日や古き時計の本堂に 短夜やいくつも夢をみてをりぬ</p>	佐々木紀久子
<p>時の日や小雨の降りて姉迎へ</p>	加藤 時子
<p>亡き母<small>しる</small>の記す手帳や菊植へる 薔薇園の癒しの足湯園香る 車椅子押してバラ園廻りたる</p>	鈴木 幸子
<p>去り日に遠くなりけり柏餅 珍しく我が家の庭に螢舞ふ 紫陽花や入り日薄れる影さして</p>	太田 正弘
<p>畦道を手をつなぎ合ひ春の山 ヒヤシンス弾かぬピアノの上に置き</p>	片岡とみ子
<p>真夜に聴く風鈴の音<small>ね</small>に癒されし 竹馬に挑みし孫<small>なっひばり</small>や夏雲雀 片隅に十薬楚々と尾の寺</p>	山崎二三子
<p>初夏の候 皆々様ご健勝にてお過ごしのことと存じます。 久しく御無沙汰しております。現在、月に2回程、句会を開催して居ります。 時々投稿させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。 平成22年6月14日（月） 介護老人保健施設ヴィラ葵 ヴィラ葵俳句クラブ</p>	



